

◎年間総括・保護者アンケート・職員の自己評価・第三者委員との話し合いをもとに、保育園の全体的な計画に沿って園評価を行う。

実践・評価・反省

コロナ禍の保育が続き、経験も学習もしてくる中で、良い意味で慣れてきたり工夫を凝らせるようになってきたりしてきたが、やはり1期はコロナに加え新しい生活のスタートでゆとりが持てなくなることもあった。どのクラスもドタバタしながら、上手いかない苦しさやもどかしさ、悩みを抱えながらの保育だったが、それらを職員間で共有し支え合い励まし合いながらみんなで保育をしていくことや、話すことの大事さを改めて感じた1期だった。ドタバタの1期を経て、心も身体も徐々に解放させながら夏の遊びを楽しんだ2期。乳児未満児での“段階的に・少しずつ・繰り返し”を意識した丁寧な関わりの土台があるから以上児になって力を発揮できること、“感触遊び＝気持ちよい”だけではない色々な感覚も大事にしながら“これは大丈夫”を増やしていくこと、“できた・できない”だけではない“中間”を大事にした関わりが大事など、夏の遊びの実践と研修での学びが繋がる振り返りができた。3期は、子どもたちの成長と共にクラスも充実してきて、子どもだけでなく保育者も充実感や達成感を持てる活動が広がった。そこに辿り着くまでの悩みや葛藤はもちろんあったが、日々クラスやグループで話をしながらそれを乗り越え、保育者も1期の頃のようなしんどさにはならず良い雰囲気でも保育ができていた。運動会はクラスごとの開催とし、乳児未満児はホールで無観客、以上児は若草体育館で観客は保護者2名として行った。どんな環境でも子どもたちがのびのびと楽しくできるような内容や会場準備など工夫し、どのクラスの子もたちも楽しむ姿や頑張る姿が見られて良かった。運動会の取り組みでは個々の苦手さや葛藤がよく見える分、どこまで手をかけたりどのように働きかけたりすれば良いかの見極めが難しく、5才児の竹馬の実践から“間を持つ大切さ”をみんなで学び合うことができた。4期のひなまつり会では一人一人の成長がしっかり表れており、まさに保育の集大成だなと改めて感じるとともに、どのような遊びや生活を通してこういった力が育ち身についてきたのか、これまでの保育実践を振り返り確かめることもできた。

昨年も今年もコロナ禍には変わらないが、その時々で状況が異なる中、その時できる最善の方法を考えながら保育してきたため、“以前と違う”ということは多々あった。しかし本来保育に“いつも通り”はなく“目の前の子どもたちと日々創っていくもの”と思えば色々なやり方や形があって当然で、「これでよし」と決めてしまわずにその都度考えていくことが、大変だけど保育を創っていく上で大事なことはないかと話し合い確認し合うことができた。コロナ禍で“今まで通り”が通用しなくなった分、その時の状況に合わせて考え話し合うことが必要になり、今年も一つ一つ何度も話し合いながら進めてきた中で“話し合う習慣”ができてきたように感じる。結果としてできたこともできなかったこともあるが、「今回はできなかったけれど、こうすれば（こうなれば）できるかもしれない」と今を前向きに捉え次に繋げていく話し合いや振り返りを今後もしていきたい。

今年合研をはじめオンラインでの研修に多くの職員が参加した。また、園内研修もグループごとに行い、乳児はわらべうた、給食は離乳食や咀嚼についての学習をしみんなで学び合うことができた。未満児は自分たちの実践をもとに話し合い、やり始めたら実践を話すことが習慣になったとのこと。これをうけて以上児でも読み合わせしよう！と学びの輪が広がった。でも実際はなかなか時間がとれなくて同じようにはできず途中断念したが、自分たちにできるまた違った方法を考えるきっかけにはなり、プラスの成果に繋がった。全障研の発達研修を複数の職員で学び合うことができたこともとても良く、やはり学び合いはみんなの力になるなと実感した。今後も理論と実践や、子どもの姿と発達を繋ぐ視点を持てるような学びを深めていきたい。

保護者との連携では、連絡帳を活用したりアンケートをとったりして保護者の思いや悩みを共有できるクラスだよりを作ったクラスもあった。担任とだけでなく他の保護者と繋がれる良い機会となり保護者からも好評だった。保護者も「話したい・聞きたい・つながりたい」という思いを私たちと同じように持っているので、その思いをどのようにして実現していくかは今後の課題である。保護者アンケートは79.8%の回収率、苦情対応は4件あった。苦情に対しては迅速に対応し保護者の思いを傾聴してきた。アンケートに寄せられた意見や要望についても真摯に受け止めながら全職員で話し合った。今後のより良い保育運営に繋げていく。保育中の怪我や事故は29件あった。顔や頭を打撲する怪我が多く、歯科や脳外科、整形外科を受診したケースは11件あった。また、誤食もあったので給食とクラスの二重チェックで事故を防いでいく。飛び出しや突発的な行動、衝動性が目立つ子どもについては園全体で共有し危機管理意識を持つようにしてきた。

園の大規模修繕計画が進み始め、今年度は園庭改修工事を行った。保育しながらの工事のため入念に打ち合わせを行い業者側も安全へは十分に配慮してくれたおかげで、思っていたよりも支障なく過ごすことができて良かった。裸足で安全に遊べる園庭になり、さくらんぼらしさが戻ってきたように感じる。

子育て支援センターや病後児保育は、これまでの実績から地域に根差してきてはいるが、コロナの影響もあるのか利用件数は減少している。子育て支援は定期的に5園会議を行いながら情報共有や学習などできているが、病後児保育は他の施設との交流の機会がないので市と連携をとりながら事業運営をすすめていく。